

編集委員会からのお知らせ

『ヴィクトリア朝文化研究』第 14 号は、2016 年 11 月に発行の予定です。会員の方々はふるってご投稿ください。投稿の締切は、2016 年 6 月末です。投稿規程については、以下をご覧ください。

投稿規程

1. 投稿原稿は以下のいずれかのカテゴリーに属するものとする。
 - (a) 論文
 - (b) 研究ノート(a), (b) いずれについても、編集委員会が審査し、採否を決定する。
2. 投稿資格は会員であり、当該年度の会費を納入した者であること。
3. 投稿原稿は未発表のものであること。ただし、口頭で発表されたものは投稿可。
4. 投稿原稿は、本学会の設立趣旨に沿い、広くヴィクトリア朝文化に関わる学際的な視野を持つものが望ましい。(学会の設立趣旨に関しては、本会会則第 2 条および HP を参照のこと。)
5. 投稿原稿は、原則として、パソコンまたはワープロにより、A4 用紙に横書きしたものとする。
 - (a) 論文は、和文の場合 20,000 字以内(A4 用紙 40 字× 30 行で 16.5 枚程度、図版を含む)、英文の場合 8,000 語以内(A4 用紙 65 ストローク× 25 行をめやすに約 29 枚、図版を含む)とする。和文の論文には上記英文の要領で英文要旨(1 枚)をつける。著作権のある図版等を使用する場合は、あらかじめ許可を得ておくこと。
 - (b) 研究ノートは、和文 12,000 字以内(A4 用紙 40 字× 30 行で 10 枚)とする。
6. 投稿者は現住所(電話番号、あればメールアドレスも)、氏名、所属、身分、投稿原稿が (a), (b) いずれに属するかを明記した別紙を同時に提出のこと。
7. 引証の形式は、MLA、APA、シカゴスタイルなど各自の専門分野の慣行に従うこと。
8. 原稿は 4 部提出すること。なお、原稿は返却しない。原稿の送付先は、日本ヴィクトリア朝文化研究学会事務局(日本女子大学文学部英文学科川端康雄研究室 〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1)とする。

著作権および掲載論文の公開について

- 1『ヴィクトリア朝文化研究』に掲載される論文(研究ノートおよび書評を含む、以下同)について、本会には以下の方針を適用する。この方針は第 9 号掲載分

以降に対して適用する。

2. 本誌掲載論文の著作権は日本ヴィクトリア朝文化研究学会に帰属する。
3. 掲載号発刊後 12 箇月が経過した論文は、PDF ファイルで本会ホームページ上に一般公開する。
4. 執筆者個人がインターネット上に本誌掲載論文を公開する場合は、本会ホームページ上にある PDF ファイルへのリンクという方法をとることとする。個人のウェブサイト内で別フォーマットのものを公開してはならない。
5. 執筆者個人がインターネット上に本誌掲載論文を公開する場合は、以下の条件を満たさなければならない。
 - (a) 掲載号発刊後 12 箇月が経過していること
 - (b) 権利表示を行うこと
 - (c) 出典表示を行うこと
 - (d) 公開された文書の利用は著作権の範囲内に限られる旨の表示を行うこと
6. 執筆者個人が自身の著書等に本誌掲載論文を転載する場合は、事前に本会事務局に申し出て許可を得なければならない。転載許可願の様式は本会 HP からダウンロードすることができる。

日本ヴィクトリア朝文化研究学会優秀論文賞規程

- 1.(名称) 本賞は日本ヴィクトリア朝文化研究学会優秀論文賞と称する。
- 2.(目的) 本賞は本会会員の学術研究の奨励と、日本におけるヴィクトリア朝文化研究の振興を目的とする。
- 3.(対象) 会誌『ヴィクトリア朝文化研究』各号に掲載された論文のうち優秀なもの 1 編を受賞の対象とする。受賞に値する論文がない場合には、受賞に準ずる論文を佳作に選出することもある。
- 4.(賞金) 本賞の賞金は 5 万円とし、学会会計より支出する。佳作の賞金は 3 万円とする。
- 5.(審査) 審査は会誌編集委員会が行なう。編集委員長は、必要に応じて編集委員以外の会員にも参考意見を求めることができる。
- 6.(発表) 本会総会において当該年度の受賞論文を発表し、受賞者を表彰する。
- 7.(改正) 本規程の改正は運営委員会、理事会の議によって行なう。付則 本規程は平成 23 年 11 月 19 日より施行する。

編集後記

酷暑の頃に編集会議がもたれ、査読結果が検討されました。会員から 7 篇の論文が投稿されましたが、慎重な審議の結果、掲載論文は 3 篇にとどまりました。不採用論文のうちの 1 篇は「研究ノート」へ投稿してはいかがでしょうか、

と勧めましたが、在外研究のため時間がないとご辞退されました。いずれも詳しい査読経過が添付されていますので、ぜひとも今後の研究に資していただきたいと切に願います。

本号より、新しい試みであるラウンドテーブルの記録とともに、招聘論文が掲載されました。大会のシンポジウムに合わせての企画ですが、ご寄稿の労をおとりくださった川名雄一郎先生には衷心から感謝を申し上げます。会員の知見がより深まるであろうと期待しております。また、特別寄稿として、重厚なご論考をお寄せ下さった丹治愛先生にもお礼を申し上げさせていただきます。

編集部からのお願いですが、少々耳の痛い話をしなければなりません。「投稿規定」を遵守しない論文が多く見られたことは残念です。たとえば英文要旨において、不注意な誤りが散見されました。規定にあるように、ネイティブ・チェックなどを受けてぜひとも提出して欲しいものです。

書評の方でもいささか問題がありました。できるだけ完全原稿で提出するのは常識になっていると思うのですが、初校を全面的に書きかえるような校正ゲラが数本も提出されたのはじつに残念です。

編集委員の先生方には原稿の査読、修正から細かい編集作業にいたるまで全面的に今回も協力して下さい、感謝の言葉もございません。編集委員である新井潤美先生、橋本順光先生とともに、私は今号でもって本誌編集長の任を終えます。幸いなことに、後任の編集長として田中裕介先生が着任して下さいます。後顧の憂いなしとはこのことでしょうか。清新な風を当学会に吹き込んで下さると期待しております。最後になりますが、会長の井野瀬久美恵先生をはじめ会員諸氏からのこれまでのご支援に感謝して、お礼の言葉にかえさせていただきます。

最後になりましたが、火事場のような編集現場で冷静に不腑けをして、ひとつのかたちにして下さった英宝社の宇治正夫氏に深謝いたします。

(編集委員長 中島俊郎)

編集委員

新井潤美

菅 靖子

田中裕介

中島俊郎

橋本順光

林田敏子

渡辺美樹

ヴィクトリア朝文化研究 第13号

2015年11月1日発行

発 行 日本ヴィクトリア朝文化研究学会
事務局 甲南大学文学部 井野瀬久美恵研究室
〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本 8-9-1
会 長 井野瀬久美恵

製 作 株式会社 英 宝 社
〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-7-7 第一井口ビル
Tel 03-5833-5870 Fax 03-5833-5872
